

---

---

**【講 義】**

**蔵書印について②**  
**「蔵書印の見方・読み方（実習）」**

---

---

講師 青田寿美（国文学研究資料館准教授）



# 蔵書印の見方・読み方(実習)

## — webツールを使いこなす

国文学研究資料館・研究部  
青田 寿美

# 概 要

---

## 1. 読めない印影との付き合い方

- i . [印記]の採録対象
- ii . 記録することの意義
- iii . 判読不能印の識別

## 2. 蔵書印を釈読するツール

- i . 印影を探す／印影を見る
- ii . webツールと印譜類

## 3. 集合知としての「蔵書印データベース」

# 1. 読めない印影との付き合い方

## i [印記]の採録対象

### ◎ 蔵書印

コレクターが自らの蔵書に捺してその所有を示す印影。

印章に刻する印文や意匠はもちろん、印材の種類や大きさ・形状、時には使用する印泥にまで、印主(所用者)によって種々異なりや拘りが見受けられる。

### ○ その他の印影

落款印 遊印 仕切判(店判) 住所印 貸本屋印 仕入印  
図書館印(受入登録印・寄贈印・小口印・隠し印・消印など)

### ○ その他の所蔵情報

蔵書票 整理票 識語(奥書) 書き込み 挟み込み

# 1. 読めない印影との付き合い方

## ii 記録することの意義

### ◎ 旧蔵者情報としての蔵書印

書物の来歴・出所・伝来の有り様を考究する  
識語や奥書に類する役割

### ○ 流通情報としての書肆印

書物の流通・媒介者の実態を解明する  
貸本屋印や符牒・仕入印

印主の学問的背景や知的興味を体系的に把握する他、散逸したコレクションをバーチャルに復元する為の重要な情報。典籍の移動・流通情報としても活用が期待される。

# 1. 読めない印影との付き合い方

## iii 判読不能印の識別

※[参考資料]蔵書印検索チャート

### ① 鮮明だが、読めない印影

読むためのツールを活用し、まずは読む努力を。

篆書体の部首を覚える → 見慣れる → 篆字を覚える → 読める  
...の繰り返し。 § 基本、くずし字学習と同じ §

### ② 一部読めない箇所を含む印影

わかる情報の足し算で推読

＋ 印影情報・印主情報・典籍情報 ＋

### ③ 痕跡でしかない印影

塗り消し、擦り消し、紙片貼付、重ね捺し、虫損、汚損、破損

...etc.を "なかったこと" にしない。 ∞ 記録することの意義 ∞

## 2. 蔵書印を釈読するツール

### i 印影を探す／印影を見る

#### ○ 印影の "ありそうな場所" を知る

題簽、見返し、冊頭・巻頭(本文一丁目)、巻末・冊末、後ろ見返し

※押捺場所や印泥・形状等による、印主の違い(職種等)や、  
所用者の癖、あるいは法則性を覚える。(例外性にも配慮)

#### ○ ルーペ、デジタルカメラやデジタル顕微鏡

スマホ等のカメラ機能でも十分有効

場合によってはPCに取り込んで画像処理

パターンの記憶とツールの活用、そして情報の記録・共有



## 2. 蔵書印を釈読するツール

### ii webツールと印譜類

#### ① NIJL「蔵書印データベース」

当館所蔵の古典籍を中心に原本から採取した蔵書印情報を印影とともに一覧するシステム。他館の画像DBを参照した蔵書印情報や『近代蔵書印譜』を始め数点の蔵書印譜からも印影等を収載。採録対象は、いわゆる蔵書印に加え、仕入印や貸本屋印を含む書肆印、蔵書票・書肆票の類、また、写本等で作成に関わった人物の印記や書画等の落款に及ぶ。

\* 印影例 \*



#### ○ 更新状況と公開データ数

2012/ 3 一般公開開始

蔵書印レコード数 : 14,773件 印影数 : 8,970点

2017/ 9 アップデート

蔵書印レコード数 : 38,400件 印影数 : 32,346点

## 2. 蔵書印を釈読するツール

### ii webツールと印譜類



『摺印補正』享和2年

『必携篆書印譜字典』



#### ② 『篆書字典』

太甫熙永編、昭和53年初版

#### 『必携篆書印譜字典』

蓑毛政雄著、平成3年初版

#### 『増訂 新編蔵書印譜』

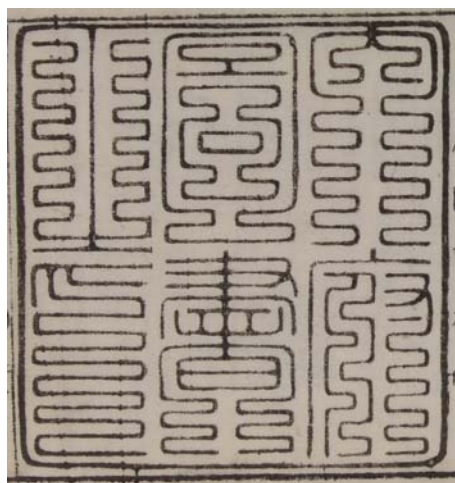
渡辺守邦、後藤憲二 共編、平成25-26年

# [印影例①] 鮮明だが、読めない印影

→「蔵書印データベース」で印影を釈読する

## \* 印譜に採録されていても、探せない印影 \*

データベースで[蔵書印文]を効率よく“検索する” ツール  
 印譜や字典との併用により、篆書体を“学習する”



[印影例②] 一部読めない箇所を含む印影

→DBの検索項目を活用し、求める印影に行き着く

**\* 印譜に採録されない印影 \***

[印文文字数] [印文出現位置] 等、多様な検索項目を使い分け、迅速かつ的確に求める印影に“辿り着く”ツール



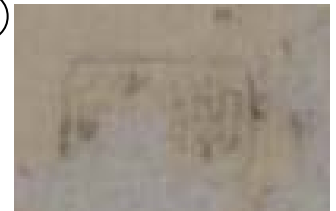
Ⓐ



Ⓑ



Ⓒ



須原  
入仕

(須原屋佐助)

村  
田



# [印影例③] 痕跡でしかない印影

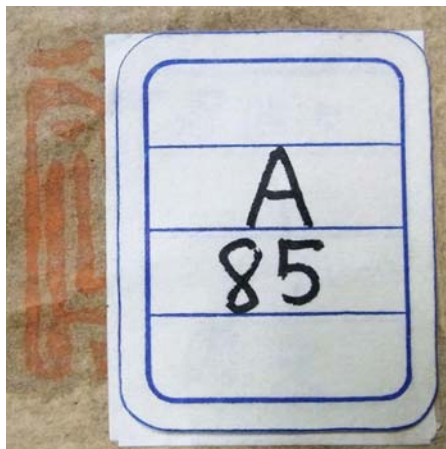
→見なかったことにしない、諦める前に検索を

## \* 見捨ててしまいがちな印影 \*

塗り消し、擦り消し、紙片貼付、重ね捺し、虫損、汚損、破損  
等々の痕跡でしかない印影を“探し出す” ツール



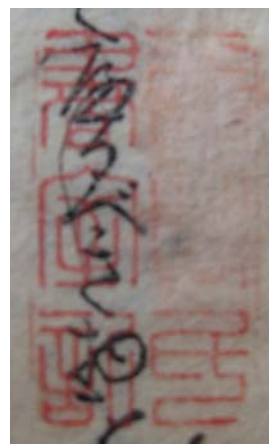
集散任天然  
永為世界宝  
(印主不明)  
十文字文庫  
(三村竹清)



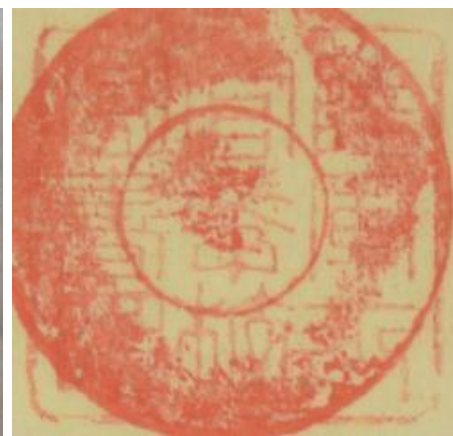
無仏  
齋  
(藤貞幹)



宇津保文庫  
(三宅吉之助)  
?  
(印主不明)



平出氏  
書室記  
(平出鏗二郎)



陸軍士  
官学校  
図書印  
(陸軍士官学校)



?  
(印主不明)

### 3. 集合知としての「蔵書印データベース」

- 1つとして等閑にできない印顆
- 集積し、分類・同定することの意義
- 印影の採取と釈読、印主の解明

書籍の流通・来歴・出所・伝来を "知る" ツール

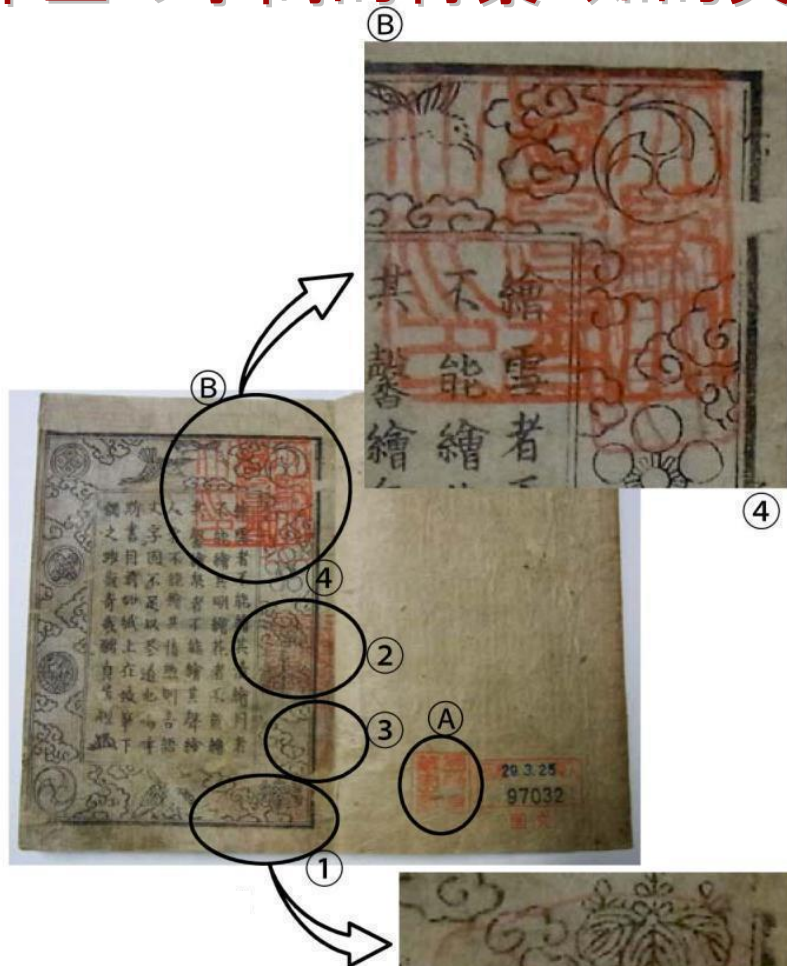


0.8 × 0.8cm

1.2 × 1.2cm

# 3. 集合知としての「蔵書印データベース」

印影を判読し集積することでコレクションをバーチャルに再編し、  
印主の学問的背景・知的興味・交友圏をも"可視化"するツール



[参考画像]



- ①「骨董舎」(咸亨堂)
- ↓
- ②「赤沼書屋」(赤沼伍八郎)
- ↓
- ③「饗庭文庫」(饗庭篁村)
- ↓
- ④「知十経眼」(岡野知十)
- ↓
- A「忍頂寺蔵書章」(忍頂寺務)
- ↓
- B「大阪大学図書之印」  
(大阪大学附属図書館)

[参考画像]



大阪大学附属図書館  
所蔵『玉之帳』  
(寛政年間刊)

資料の歴史的な  
再評価にも繋がる

# まとめ

## ❖ 蔵書印を釈読し記述することの重要性 — 書誌注記を媒介とした、 “書脈” “人脈” の広がりへ

○ 書誌情報・所在情報の有効活用に向けて

→ 書物に出会う・関わる取っ掛かりが書誌・所在情報

○ 印記を始めとする[注記]情報を集積する

→ 個々の資料の学術的価値・意義の発見や再評価へ

→ 印文・印影によって繋がる情報網

書物と人物を複合的に連携させる、

情報ナビゲーションツールの構築





[参考資料] 蔵書印検索チャート —— 判読不能印の識別から印影釈読へ ——

① 鮮明だが、読めない印影

\*\*\* 読める文字と印影情報 (印文出現位置・印文文字数・色・陰陽・形状 等) を、「蔵書印データベース」 [http://base1.nijl.ac.jp/~collectors\\_seal/](http://base1.nijl.ac.jp/~collectors_seal/) の「詳細検索」で検索 \*\*\*



蔵書印文……「□□屋文庫」 → 検索ワード入力「屋文庫」  
 形状……正方形 → 検索ワード選択「01:正方形」  
 印文文字数…5文字 → 検索ワード範囲指定「5～5」  
 印文出現位置 → 検索ワード入力「3屋 4文 5庫」

※長方印は「枯口堂」と簡単に読め、蔵書印 DB で類似する印がヒット。  
 +  
 2文字目の が烈火 (火) と分かれば、「魚」と類推。  
 ↓  
 下掲の E.『漢篆千字文』や B. C. D の web サイト、あるいは冊子体の印譜類で検索し、確認・確定。



No.	サムネイル	印文
1		西尾屋文庫
2		西尾屋文庫
3		西尾屋文庫
4		西尾屋文庫



「百足屋文庫」  
 嵩山堂青木恒三郎の所用印

② 一部読めない箇所を含む印影

\*\*\* わかる情報の足し算で推読 \*\*\*



蔵書印文……「□□館圖書」 → 「□□館圖書」と類推。  
 +  
 1文字目の が三水 (彡) で、  
 が「子」と分かれば、文字類推。

類推不可の場合  
 ↓  
 下掲の A. 字源 - jigen.net - で「部品」検索、ヒットした候補群から目星を付ける。

必ず↑チェック

偏旁冠脚などの漢字構成パーツ (部品) を覚えておくと、篆書体の釈読に役立つ



『漢篆千字文』

→ 「游 館図書」で、蔵書印 DB 検索 →



「游焉館図書」  
 府内藩の藩校遊焉館の所用印

③ 痕跡でしかない印影

\*\*\* 塗り消し、擦り消し、紙片貼付、重ね擦り、虫損、汚損、破損...等を "なかったこと" にしない \*\*\*



○典籍に捺してある他の印から、類推。(1) 甲コレクションがまとまって乙コレクションに入る等のケース散見、甲印が墨滅されていても乙印があることで類推できる可能性あり。  
 (2) 同一印主が、複数印を捺す可能性あり。

蔵書印文……「□□本」(表紙に押捺) → 同一資料の見返し印



→ データベースや印譜で確認し同定する



「久志本」  
 久志本常彰の所用印  
 (『新編蔵書印譜』所載)

微かな痕跡・手ごかりから判読できる可能性あり、諦める前に検索を

■ 印文を特定する/仮定するために、有用な web サイト ■

- A. 字源 - jigen.net - <http://jigen.net/> 「部品」検索
- B. 書法字典 - 国学大師 <http://shufa.guoxuedashi.com/> 「書法字典」検索
- C. 書法字典 <http://www.shufazidian.com/> 「篆刻」検索
- D. 漢字古今字資料庫 <http://xiaoxue.iis.sinica.edu.tw/ccdb?ccmapcode=2> 「字形」検索
- E. 漢篆千字文 - 国語史グループ <http://kokugosi.g.hatena.ne.jp/keyword/%E6%BC%A2%E7%AF%86%E5%8D%83%E5%AD%97%E6%96%87>

『漢篆千字文』(国立国会図書館デジタルコレクション) の漢字一覧と本文へのリンク ※原典ママの旧漢字採用ゆえ、検索時に要注意